

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年3月15日

**【四半期会計期間】** 第11期第3四半期(自平成24年11月1日至平成25年1月31日)

**【会社名】** 株式会社ビューティガレージ

**【英訳名】** BEAUTY GARAGE Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役CEO 野村 秀輝

**【本店の所在の場所】** 東京都杉並区南荻窪四丁目41番10号

**【電話番号】** 03 - 5336 - 4103

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

**【最寄りの連絡場所】** 東京都杉並区荻窪五丁目11番17号 荻窪第二和光ビル6階

**【電話番号】** 03 - 5347 - 9512

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第11期 第3四半期 連結累計期間	第10期
		自 平成24年 5月 1日 至 平成25年 1月 31日	自 平成23年 5月 1日 至 平成24年 4月 30日
売上高	(百万円)	3,753	4,346
経常利益	(百万円)	213	252
四半期(当期)純利益	(百万円)	119	147
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	119	147
純資産額	(百万円)	798	678
総資産額	(百万円)	1,570	1,554
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	113.37	140.23
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		
自己資本比率	(%)	50.8	43.6

回次	会計期間	第11期 第3四半期 連結会計期間
		自 平成24年11月 1日 至 平成25年 1月 31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	34.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、新株予約権の残高はありますが、第10期及び第11期第3四半期連結累計期間は当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
4. 平成24年10月2日付で1株につき200株の株式分割を行いました。第10期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
5. 当社は、第10期第3四半期連結累計期間においては四半期連結財務諸表を作成していないため、第10期第3四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間においては四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較分析は行っていません。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、当初、東日本大震災後の復興需要などを背景に回復基調にあるものの、円高の長期化及び欧州債務危機による金融市場の不安定さ、さらには日中関係の悪化による経済変調などにより景気は後退局面に入っており、依然として先行きは不透明な状況となっております。しかしながら、昨年12月の政権交代による景気対策への期待などから株価の上昇や円安の流れとなり、景気回復の兆しも見え始めました。

当社グループが事業を展開する美容サロン業界におきましても消費者マインドの冷え込みから厳しい経済環境が続いていたことから、経済的な商材の仕入ルートの確保や効果的な集客方法を検討・実施する傾向が強まってきております。

そのような状況下、当社グループでは、最大の販路であるプロ向け理美容商材インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE Online Shop」における利便性の向上や低価格商品を中心とした品揃えの強化に最大限注力したことで、新規顧客の開拓と既存顧客のリピート率向上を実現して参りました。

また、廉価でデザイン性の高いオリジナルブランド理美容機器の投入や業務用化粧品のラインナップの拡充を果たすことで、利益率の確保と販売量の拡大にも努めるとともに、理美容・エステティックサロン等のビューティサロンの開業と経営を支援するワンストップ体制を活用することで総合受注の促進を図って参りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高は3,753,774千円、営業利益は195,854千円、経常利益は213,695千円、四半期純利益は119,943千円となっております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### 物販事業

当事業において運営するプロ向け理美容商材インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE OnLine Shop」は、サービス開始から10年目を迎え15万を超える登録会員事業主数を有するまでに成長しました。また、オンラインショップにおける徹底したユーザビリティの改善を図るとともに、新自社物流センター構築による配送サービスの向上に努めた結果、当事業は堅調に推移しております。

この結果、当事業の売上高は2,858,976千円、セグメント利益は282,052千円となっております。

#### 店舗設計事業

従来受注案件の多くを占めていた小型案件や個店案件に加えて、ビューティサロンを展開するチェーン本部からの案件の獲得など、当社グループの総合力を活かすことで、受注の促進を図って参りました。

この結果、当事業の売上高は740,988千円、セグメント利益は27,277千円となっております。

#### その他周辺ソリューション事業

ビューティサロンの開業と経営に必要な各種ソリューションサービスを、各専門インターネットサイトと全国主要都市12ヶ所のショールームを通して提供することにより、不動産物件仲介サービスや集客支援サービス、e-ラーニングサービス等を中心にビューティサロンに対する開業と経営支援事業の売上向上に努めました。

しかしながら、e-ラーニングサイトの整備に期間を要したことなどから、損益が赤字となりました。

この結果、当事業の売上高は153,809千円、セグメント損失は3,053千円となっております。

## (2) 財政状態の分析

### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.6%減少し、1,434,989千円となりました。これは、主に商品の増加51,134千円があったものの、売掛金の減少50,885千円及び現金及び預金の減少38,080千円があったことによるものであります。

### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて22.0%増加し、135,442千円となりました。これは、主に無形固定資産の増加11,705千円及び有形固定資産の増加10,130千円によるものであります。

### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて18.4%減少し、671,353千円となりました。これは、主に未払法人税等の減少54,458千円、買掛金の減少53,473千円及び短期借入金の減少52,497千円によるものであります。

### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて90.7%増加し、100,902千円となりました。これは、主に長期借入金の増加61,740千円によるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて17.7%増加し、798,176千円となりました。これは、主に当四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が119,943千円増加したことによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (4) 生産、受注及び販売の実績

##### 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)
店舗設計事業	647,113

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 金額は製造原価によっております。

##### 仕入実績

当第3四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)
物販事業	1,736,111
その他周辺ソリューション事業	66,038
合計	1,802,150

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3. 金額は仕入価格によっております。

##### 受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
店舗設計事業	810,375	130,110

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

##### 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	
	区分	
物販事業		2,858,976
	理美容機器	2,240,680
	化粧品等	618,296
店舗設計事業		740,988
その他周辺ソリューション事業		153,809
合計		3,753,774

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,232,000
計	4,232,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年1月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年3月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,058,000	1,162,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株 であります。
計	1,058,000	1,162,000		

- (注) 1. 当社株式は平成25年2月14日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。  
2. 上場に伴い、平成25年2月13日を払込期日とする、公募による株式95,000株を発行いたしました。これにより発行済株式総数は1,153,000株となっております。  
3. 平成25年2月1日から平成25年2月28日までの間に、新株予約権の行使による株式9,000株を発行いたしました。これにより発行済株式総数は1,162,000株となっております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年1月31日		1,058,000		138,400		89,667

- (注) 1. 平成25年2月13日を払込期日とする公募増資により、発行済株式総数が95,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ100,510千円増加しております。  
2. 平成25年2月1日から平成25年2月28日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が9,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,250千円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,058,000	10,580	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,058,000		
総株主の議決権		10,580	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結累計期間(平成23年5月1日から平成24年1月31日まで)においては四半期連結財務諸表を作成していないため、四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書に係る比較情報は記載しておりません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年11月1日から平成25年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年5月1日から平成25年1月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	422,021	383,941
売掛金	329,720	278,835
商品	562,922	614,057
仕掛品	28,779	15,817
その他	109,736	151,874
貸倒引当金	9,895	9,536
流動資産合計	1,443,286	1,434,989
固定資産		
有形固定資産	24,295	34,426
無形固定資産		
ソフトウェア	7,451	20,746
のれん	4,767	3,178
その他	116	116
無形固定資産合計	12,335	24,041
投資その他の資産	1 74,420	1 76,974
固定資産合計	111,052	135,442
資産合計	1,554,339	1,570,431
負債の部		
流動負債		
買掛金	266,826	213,353
短期借入金	70,000	17,503
1年内返済予定の長期借入金	61,400	74,320
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払法人税等	92,691	38,233
賞与引当金	17,330	47,843
製品保証引当金	13,250	9,873
受注損失引当金	261	-
その他	281,439	250,227
流動負債合計	823,199	671,353
固定負債		
社債	10,000	-
長期借入金	3,400	65,140
ポイント引当金	23,144	15,895
資産除去債務	6,011	9,753
その他	10,350	10,113
固定負債合計	52,906	100,902
負債合計	876,106	772,255

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	138,400	138,400
資本剰余金	89,667	89,667
利益剰余金	450,166	570,109
株主資本合計	678,233	798,176
純資産合計	678,233	798,176
負債純資産合計	1,554,339	1,570,431

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)
売上高	3,753,774
売上原価	2,392,797
売上総利益	1,360,977
販売費及び一般管理費	1,165,122
営業利益	195,854
営業外収益	
受取利息及び配当金	75
為替差益	16,523
その他	2,611
営業外収益合計	19,209
営業外費用	
支払利息	1,072
その他	295
営業外費用合計	1,367
経常利益	213,695
特別利益	
固定資産売却益	82
特別利益合計	82
特別損失	
固定資産除却損	763
特別損失合計	763
税金等調整前四半期純利益	213,015
法人税、住民税及び事業税	99,788
法人税等調整額	6,716
法人税等合計	93,071
少数株主損益調整前四半期純利益	119,943
四半期純利益	119,943

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	119,943
四半期包括利益	119,943
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	119,943

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年5月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年1月31日)
投資その他の資産	2,299千円	2,334千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)
減価償却費	18,011千円
のれんの償却額	1,589 "

(株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成25年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リユーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,858,976	740,988	153,809	3,753,774		3,753,774
セグメント間の内部売上高 又は振替高	17,945	29,708	10,490	58,145	58,145	
計	2,876,922	770,697	164,299	3,811,919	58,145	3,753,774
セグメント利益又は損失( )	282,052	27,277	3,053	306,277	110,422	195,854

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 110,422千円には、セグメント間取引消去7,642千円、未実現利益の調整額 357千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 117,708千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積もりの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年5月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間における各セグメント利益に与える影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成25年1月31日)
1株当たり四半期純利益金額	113.37 円
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	119,943
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	119,943
普通株式の期中平均株式数(株)	1,058,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権の残高がありますが、当第3四半期連結累計期間は当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
2. 当社は、平成24年10月2日付で普通株式1株につき普通株式200株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

(公募による新株の発行)

当社は、平成25年2月14日に株式会社東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。当社は上場にあたり平成25年1月10日及び平成25年1月24日開催の取締役会において、次のとおり新株式の発行を決議しており、平成25年2月13日に払込が完了いたしました。

この結果、資本金は238,910千円、発行済株式総数は1,153,000株となっております。

(1) 募集方法

一般募集（ブックビルディング方式による募集）

(2) 発行する株式の種類及び数

普通株式 95,000株

(3) 発行価格

1株につき2,300円

一般募集はこの価格にて行いました。

(4) 引受価額

1株につき2,116円

この価額は、当社が引受人より1株当たりの新株式払込金として受け取った金額であります。なお、発行価格と引受価額との差額の総額は、引受人の手取金となります。

(5) 資本組入額

1株につき1,058円

(6) 発行価格の総額

218,500千円

(7) 引受価額の総額

201,020千円

(8) 資本組入額の総額

100,510千円

(9) 払込期日

平成25年2月13日

(10) 資金の用途

大型ショールーム新設、物流センター拡張、インターネット通販サイト等各種システム強化のための設備資金及び商品ラインナップの拡充に向けた商品の購入資金に充当する予定であります。

(追加情報)

(第三者割当による新株の発行)

平成25年1月10日及び平成25年1月24日開催の取締役会において、株式会社SBI証券が行うオーバーアロットメントによる当社株式の売出し(貸株人から借入れる当社普通株式20,000株の売出し)に関連して、同社を割当先とする第三者割当による新株式の発行を決議いたしました。

その概要は次のとおりであります。

(1) 発行する株式の種類及び数

普通株式 20,000株(上限)

(2) 割当価格

1株につき2,116円

(3) 資本組入額

1株につき1,058円

(4) 割当価格の総額

42,320千円(上限)

(5) 資本組入額の総額

21,160千円(上限)

(6) 払込期日

平成25年3月22日

(7) 割当先

株式会社SBI証券

(8) 資金の用途

商品ラインナップの拡充に向けた商品の購入資金に充当する予定であります。

(9) その他

株式会社SBI証券は、貸株人から借入れる株式の返却を目的として、東京証券取引所においてオーバーアロットメントによる売出しに係る売出株式数(20,000株)を上限とするシンジケートカバー取引を行う場合があります。

株式会社SBI証券は、シンジケートカバー取引により取得した株式については、割当に応じない予定でありますので、その場合には本件第三者割当増資における発行数の全部または一部につき申込が行われず、その結果、失権により本件第三者割当増資における最終的な発行数が減少する、または発行そのものが全く行われない場合があります。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年3月13日

株式会社 ビューティガレッジ  
取締役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 片岡久依

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 淡島國和

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレッジの平成24年5月1日から平成25年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年11月1日から平成25年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年5月1日から平成25年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレッジ及び連結子会社の平成25年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成25年1月10日及び平成25年1月24日開催の取締役会において、公募による新株式の発行を決議し、平成25年2月13日に払込が完了している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。